

経済産業省採択 平成 20 年度体系的な社会人基礎力育成・評価システム構築事業

『PBL教育の成果報告会&今後の可能性』

— 産官学三者の立場から —

■日時：平成 21 年 2 月 7 日（土） 14：00～17：00

■場所：キャンパスプラザ京都（大学コンソーシアム京都）

■対象：一般（企業関係）、大学・高校関係、大学生

参加申込方法（入場無料・事前申込）

京都産業大学では、本フォーラム参加申込書にご記入いただいた氏名、住所等の個人情報は、個人情報保護に関する規定に基づいて厳重に管理します。これらの個人情報は、参加者数の把握、事務上の連絡等に利用します。

●FAXによる申込

参加申込書をご記入の上、下記 FAX 番号へお送りください。

●メールによる申込

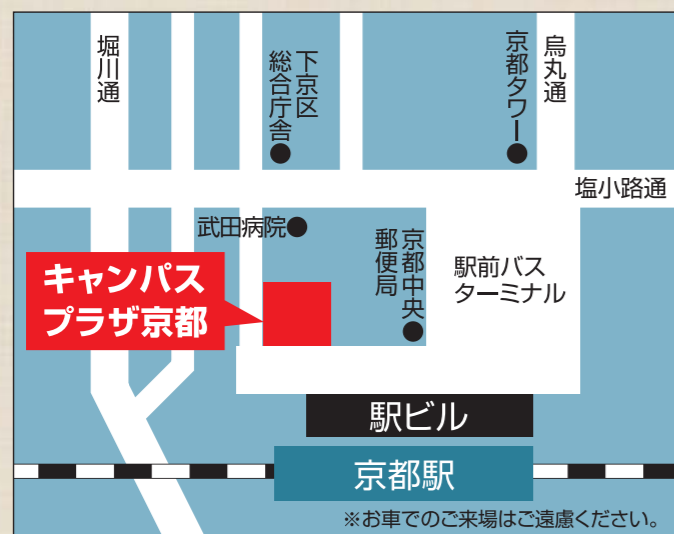
参加申込書の内容を、下記アドレスまでご送信ください。

●問合せ及び申込先

京都産業大学キャリア教育研究開発センター事務室PBL係
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山
TEL 075-705-1754 FAX 075-705-1939
E-mail ksu-pbl-sympo@star.kyoto-su.ac.jp

申込締切日 平成 21 年 1 月 30 日（金）

定員 150 名（先着 150 名で締切らせていただきます）



主催：京都産業大学



経済産業省採択 平成20年度体系的な社会人基礎力
育成・評価システム構築事業……フォーラム

『PBL教育の成果報告会&今後の可能性』

— 産官学三者の立場から —

■日時：平成21年2月7日（土） 14：00～17：00

■場所：キャンパスプラザ京都（大学コンソーシアム京都）……京都駅北西徒歩5分

■対象：一般（企業関係）、大学・高校関係、大学生……定員 約150名

■主催：京都産業大学

本学は、「平成20年度経済産業省体系的な社会人基礎力育成・評価システム構築事業」
（*1）のモデル大学として採択された。本学ではPBL教育（Project Based Learning
*2）を主に社会人基礎力の育成につなげている。

我が国もユニバーサル化を迎え、目的意識を持たずに大学へ進学し、学ぶ理由を見失っている学生も増加している。そうした中、大学での学習が実社会で役立つと実感できることは、大学で学ぶモチベーションにつながる。

企業から課題を提供してもらい、学生が自らの力で解決策を提示するという教育手法は、近年になり、ようやく大学で教育に取り入れられ始めている。しかし、その技法、内容、効果等についてはまだまだ試行錯誤の段階である。また、PBL教育は、企業から課題を提供してもらい、学生が解決策を提示するという手法であるため、企業の協力は不可欠である。企業と大学がどのように連携を図るのかといった点についても、いくつもの課題がある。

そこで本フォーラムでは、本学での取り組み実践を報告し、その成果を材料としてPBL教育の大学教育における意義と今後の可能性について議論をする機会としたい。

■プログラム

挨拶：・並松 信久（京都産業大学 副学長 キャリア教育研究開発センター運営委員／教授）
・志賀 英晃（近畿経済産業局・産業人材政策課 課長）

【I部】

1. 【京都産業大学のPBL教育取り組み概要】*3
・後藤 文彦（京都産業大学キャリア教育研究開発センター運営委員長／教授）
2. 【課題提供企業による課題解説】
3. 【学生による課題解決のプレゼンテーション】
4. 【課題解決のプレゼンテーションに対するアドバイス】

【II部】

■パネルディスカッション

テーマ 『産官学から見るPBL教育の意義と評価』

本パネルディスカッションでは、PBL教育の意義と評価について、産業界の視点から議論をしてみたい。大学側がよかれと思って実施している教育でも、人材を受け入れる側にその実感がなければ、単なる大学側の自己満足に陥る。そこで、PBL教育が大学側だけの自己満足ではない、社会に役立つ人材を育成している教育プログラムなのか、そうするためにはどうすればいいのか、産業界（企業）と大学の連携をどのように図ればいいのか、という点について、議論を深めていく。

■パネリスト

- 志賀 英晃（近畿経済産業局・産業人材政策課 課長）
- 今関 靖英（日本アイ・ビー・エム（株）公共事業官公庁第三第二営業部長：課題提供企業）
- 夏目 孝吉（（株）文化放送キャリアパートナーズ 就職情報研究所）
- 原 正紀（（株）クオリティー・オブ・ライフ代表取締役 ジョブカフェ・サポートセンター代表）
- 中尾 憲司（京都産業大学コーオプ教育スタッフ）

■コーディネーター

- 松高 政（京都産業大学キャリア教育研究開発センター運営委員／教授）

閉会挨拶：・若松 正志（京都産業大学キャリア教育研究開発センター長／教授）

*1 平成20年度体系的な社会人基礎力育成・評価システム構築事業

大学教育において、学生が入学してから卒業するまでの間に受講する様々な科目等を効果的に編成し、学んだ知識を活用して社会人基礎力を発揮する機会を多く設けるとともに、こうした能力を適切に評価することによって、学生の社会人基礎力を徐々に伸ばし、定着させられるようなモデルを構築することを目指した事業。
詳細は経済産業省内Webページ <http://www.meti.go.jp/infomation/data/c80731aj.html>

*2 PBL（Project Based Learning）

問題や課題を解決するために、日頃学んだ知識を活用して調査・検証しながら取り組む実践型教育。主体的に学習していく教育プログラムとして注目されている。

*3 京都産業大学PBL教育の概要

二段階方式実践的PBL型教育
～社会人基礎力を内面から高め、状況に応じて柔軟に活用できるようにするために～
本学のこのプロジェクトは次の二つの目的を担っている。

■教育目的

学生の学習意欲を刺激しながら、社会人基礎力を内面から高め、状況に応じてそれを柔軟に活用できるようにする。

■社会目的

社会人基礎力を広く社会に普及させる。

